

# 総合人間科学 倫 理 学

## 1 構 成 員

	平成 27 年 3 月 31 日現在	
教授	1 人	
病院教授	0 人	
准教授	0 人	
病院准教授	0 人	
講師（うち病院籍）	0 人	(0 人)
病院講師	0 人	
助教（うち病院籍）	0 人	(0 人)
診療助教	0 人	
特任教員（特任教授、特任准教授、特任助教を含む）	0 人	
医員	0 人	
研修医	0 人	
特任研究員	0 人	
大学院学生（うち他講座から）	1 人	(0 人)
研究生	1 人	
外国人客員研究員	0 人	
技術職員（教務職員を含む）	0 人	
その他（技術補佐員等）	0 人	
合計	3 人	

## 2 教員の異動状況

森下直貴 教授 2002 年 11 月～現職

## 3 研究業績

数字は小数 2 位まで。

	平成 25 年度	
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	4 編	(3 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0 編	
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(3) 総説数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0 編	(0 編)
そのインパクトファクターの合計	0.00	

(1) 原著論文（当該教室所属の者に下線）

- A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの
1. 森下直貴：「健康」を哲学して『老成社会』の提唱に及ぶ。『人間会議』夏号2014：18-23,2014.
  2. Naoki Morishita：Reconsidering “health” from the perspective of “system”: Health as desire and way of life for people of advanced age. *Journal of Philosophy and Ethics in Health Care and Medicine*, No.8：27-42, December 2014.
  3. 森下直貴：倫理学の視点からみたリスク論. *日本臨床環境医学*, 23巻2号, 76-85, 2014.12.
  4. 森下直貴：井上哲次郎の〈同=情〉の形而上学—近代「日本哲学」のパラダイム. *浜松医科大学紀要一般教育*, 第29号1-43頁, 2015.

## 5 医学研究費取得状況

	平成 26 年度	
(1) 文部科学省科学研究費	1 件	(90 万円)
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	(0 万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0 件	(0 万円)
(4) 財団助成金	0 件	(0 万円)
(5) 受託研究または共同研究	0 件	(0 万円)
(6) 奨学寄附金その他 (民間より)	0 件	(0 万円)

### (1) 文部科学省科学研究費

1. 挑戦的萌芽研究 (24652003) 明治期「日本哲学」の可能性をめぐる研究  
平成 24～26 年度 26 年度：90 万円

## 7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0 件	1 件
(2) シンポジウム発表数	1 件	8 件
(3) 学会座長回数	1 件	1 件
(4) 学会開催回数	1 件	1 件
(5) 学会役員等回数	0 件	3 件
(6) 一般演題発表数	1 件	

### (1) 国際学会等開催・参加

#### 1) 国際学会・会議等の開催

1. 日中国際シンポジウム：近代日本・中国における哲学思想の再検討, 北京外国語大学日本研究センター, 2014 年 9 月 13 日. 主催.

#### 3) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. 明治期日本哲学の基本構造—西周・井上哲次郎・西田幾多郎. 日中国際シンポジウム：近代

日本・中国における哲学思想の再検討,北京外国語大学日本研究センター,2014年9月13日.

4) 国際学会・会議等での座長

1. 日中国際シンポジウム:近代日本・中国における哲学思想の再検討,北京外国語大学日本研究センター,2014年9月13日.

5) 一般発表 (口頭発表)

1. **Naoki Morishita: A New Model in Medical Ethics: Who is a mediator observing /observed.**  
**2014 International Conference of the Japanese Association for Philosophical and Ethical Researches in Medicine,Toyo University, Hakusan Main Campus,Nov. 24, 2014.**

(2) 国内学会の開催・参加

1) 主催した学会名

1. 日本生命倫理学会第26回大会 (浜松),2014年10月25-26日.

2) 学会における特別講演・招待講演

1. 森下直貴 (大会長講演):セカンドオーダー生命倫理学からサードオーダー生命倫理学へ

4) 座長をした学会名

1. 日本生命倫理学会:「生命倫理と医療倫理」および「研究不正と対策のくり返しを越えられるか?」シンポジウム, 日本生命倫理学会第26回大会 (浜松),2014年10月25-26日

(3) 役職についている国際・国内学会名とその役割

1. 日本生命倫理学会 評議委員、総務委員

2. 中部生命倫理研究会 会長

## 12 研究プロジェクト及びこの期間中の研究成果概要

1. 22年度~25年度の科研費基盤研究(B)では、現代社会の先端科学技術を自己統治するための倫理システムの構築をめざしてきた。「先端科学技術」のうちでとくに取り上げたのは、ニューロサイエンス、ロボティクス、サイボーグ技術、テクノ・エンハンスメント等であり、これらの「デジタル化とその応用」をめぐる、哲学的視点と文明論的視点から考察することを通じて「総合的な倫理的枠組み」を構築し、現場と制度への応用を探ってきた。以上を受けて26年度には共同研究の成果をまとめるべく討議を重ねてきた。それは今夏、『生命と科学技術の倫理学』として刊行される予定である。

2. 明治期の哲学思想に関して井上哲次郎の形而上学を論文としてまとめた。「同情」概念を核心とする井上の形而上学が、近代「日本哲学」のパラダイムとして位置づけるに相応しい内容をもつことを明らかにした。また、日中国際シンポジウムを北京で開催することができた。

## 14 研究の独創性, 国際性, 継続性, 応用性

1. 生命(バイオ)技術を含む先端科学技術全般に対応する包括的な倫理システムの構築という試みは、欧米にもアジアにも見当たらない。ここでえられた倫理の視点を目下、例えばモラルエンハンスメント論(脳神経科学と道徳教育との結合)に応用している。

2. 明治期の哲学思想（日本哲学）の再把握を通じて、近代日本の思想のみならず、日本思想史の全体を捉え直そうと試みている。中国の研究者との交流を通じて、知の制度化という点から見て近代日本思想の重要性が確認できた。これからも引き続き、明治期の哲学思想を立体的に描く研究を進めていく。